

平成26年度 大気中水銀バックグラウンド濃度等の  
モニタリング調査結果について

平成27年9月1日  
環境省環境保健部  
環境安全課

目 次

1. 調査概要

2. 調査方法等

- (1) 調査地点
- (2) 調査項目、調査方法等
- (3) 調査の検討体制

3. 調査結果の概要

- (1) 大気中の水銀濃度
  - 1) 平成26年度の調査結果の概要
  - 2) 平成26年度と過年度の傾向の比較
- (2) 降水中の水銀濃度
  - 1) 平成26年度の調査結果の概要
  - 2) 平成26年度と過年度の傾向の比較
- (3) まとめ
- (4) その他

4. 今後の対応

(参考1) 平成25年度有害大気汚染物質モニタリング調査結果と本調査の結果の比較

(参考2) 大気中粒子状物質における水銀以外の金属元素濃度の測定結果について

(参考3) 有害大気汚染物質測定方法マニュアルによる測定と本調査の方法による測定結果  
の比較

## 1. 調査概要

国連環境計画（UNEP）は、平成 13 年から地球規模での水銀汚染に関連する活動を開始し、水銀による環境汚染への国際的な対応を進めている。近年では、平成 21 年に政府間交渉委員会（INC）を設置し、平成 25 年 1 月までの 5 回の会合を経て条約の名称及び条文案が合意されたことを受けて同年 10 月に熊本・水俣で水銀に関する水俣条約外交会議を開催し、この会議において、水銀に関する水俣条約が採択された。

我が国においては、この条約を早期に締結するとともにこの条約の趣旨を踏まえた包括的な水銀対策等の実施を推進するための「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」及び「大気汚染防止法の一部を改正する法律」が本年 6 月に公布された。

こうした動向等を踏まえ、環境省では、平成 19 年度\*から、国際的な水銀の排出状況及び濃度レベルの推移、それらが我が国の環境に及ぼす影響の把握等を通じて、国際的な水銀対策の立案に資することを目的として、水銀について、国内の発生源による影響を直接受けにくい地点（バックグラウンド地点）である沖縄県辺戸岬において、大気中濃度（バックグラウンド濃度）等について、モニタリングを実施してきた（※予備的な調査は、平成 18 年度に実施）。

さらに、北日本における水銀バックグラウンド濃度を測定するため、平成 26 年 8 月から、秋田県の男鹿半島においてモニタリング調査を新たに開始した。

本調査結果は、平成 26 年度の辺戸岬と男鹿半島における調査結果を、辺戸岬における過年度の調査結果と併せて取りまとめたものである。

## 2. 調査方法等

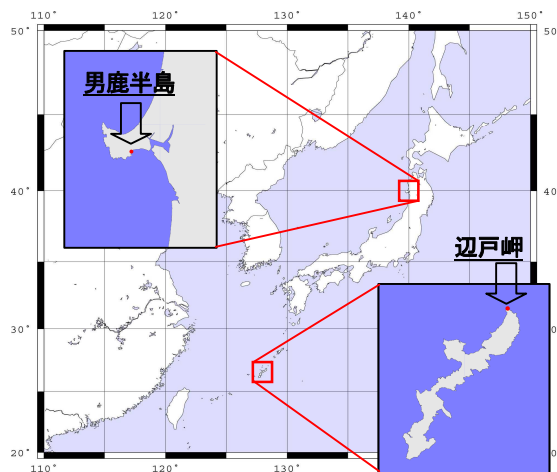
### (1) 調査地点

- ・ 沖縄県：辺戸岬

独立行政法人 国立環境研究所 辺戸岬 大気・エアロゾル観測ステーション  
(沖縄県国頭郡国頭村字宜名真)

- ・ 秋田県：男鹿半島

(秋田県男鹿市船川港船川字泉台 3-2、秋田県船川測定局隣接地)



## (2) 調査項目、調査方法等

調査項目及び調査方法等を表 1 に示す。

### 1) 大気中水銀濃度の測定

大気中の水銀には多くの種類(形態)が存在し、その大部分を占める元素状水銀(金属水銀)のほか、酸化態水銀、粒子状水銀等の形態がある。こうした様々な形態の水銀は、大気中において異なる挙動を示すことが知られており、金属水銀は大気中に長時間にわたって滞留する一方で、酸化態水銀及び粒子状水銀は降水などを通じて地上に沈着しやすく、大気沈着において大きな割合を占めることが知られている。

本調査では、国際的な水銀の排出状況及び濃度レベルの推移、それらが我が国の環境に及ぼす影響の把握等に資することを目的に、大気中の水銀に関し、国内のバックグラウンド地点において、ガス状で存在する金属水銀及び酸化態水銀並びに粒子状水銀の濃度をそれぞれ形態別に測定した(表 1)。

測定は、短時間の水銀濃度の変化を化学形態別に精度良く測定できる装置で、国際的に広く利用されている Tekran 社(カナダ)製の形態別水銀連続測定装置により行った(表 2 参照)。

なお、この本調査における測定の方法は、環境省が実施している大気汚染防止法に基づく有害大気汚染物質モニタリング調査における「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」(平成 23 年 3 月 環境省)に従った方法\*と異なる。このため、平成 20 年度に従来のマニュアルに従った方法と並行測定を行い、両者の測定値が良く一致していることを確認している(詳細は参考 3 参照)。

表 1 調査項目、調査方法及び頻度

区分	調査項目	調査方法	測定頻度
大気成分	ガス状	Tekran 社製形態別水銀連続測定装置により測定	連続測定(16回/日)
	金属水銀 酸化態水銀		連続測定(8回/日)
降水成分	粒子状水銀	降水捕集装置(採水口径 15cm)により試料を採取し、米国環境保護庁(EPA)が定める Method 1631 に準じ水銀濃度を分析	週 1 回測定(7日間連続サンプリング)

注) 本調査における「金属水銀」とは、大気中にガス状で存在する水銀元素( $\text{Hg}^0$ )のことを指す。また、「酸化態水銀」は、大気中にガス状で存在する酸化された水銀( $\text{Hg}^{2+}$ )を、「粒子状水銀」は、大気中の浮遊粒子状物質に含まれる又は吸着している水銀を、それぞれ表している。

表 2 形態別水銀連続測定装置の概要

形態別水銀連続測定装置 (Tekran 社製)	
検出部 : Model 2537 捕集部 : Model 1130 、 Model 1135	
測定範囲	0.1~10,000 (ngHg/m <sup>3</sup> )
検出下限	0.1 (ngHg/m <sup>3</sup> ) (7.5L サンプル)
流量	0.5~1.5 (L/min)
試料採取間隔	5~120 分 (ガス状(金属) : 5 分、ガス状(酸化態)・粒子状 : 120 分)
測定方法	加熱気化-金アマルガム冷原子蛍光法

## 2) 降水中水銀濃度の測定

本調査では、降水によって地表にもたらされる水銀の量をモニタリングするため、降水中の水銀について、濃度の測定を行った。

測定のための試料の採取に際しては、感雨計により自動的に降水試料のみを採取できる降水捕集装置 (採水口径 15cm) を用いて連続採取を行った。また、水銀濃度の分析は、週 1 回の頻度で、所要の分析精度を確保するため、米国環境保護庁 (EPA) の Method 1631 に準じ、還元気化-金アマルガム-冷原子吸光分析法により行った。

なお、降水の分析は、分析精度上、十分な試料が得られた週のみを対象に行った。また、装置に関しては、週 1 回、点検、洗浄及び動作確認を行った。

## (3) 調査の検討体制

調査の計画・実施に当たっては、専門家から構成する「有害金属モニタリング調査検討会」(柴田康行委員長 (独立行政法人 国立環境研究所)) を設置し、調査手法等について検討・助言を受けるとともに、調査結果の評価等を行った。

### 平成 26 年度「有害金属モニタリング調査検討会」委員

氏名	所属・役職
河本 和明	長崎大学 大学院 水産・環境科学総合研究科 教授
柴田 康行	(独)国立環境研究所 環境計測研究センター 上級主席研究員 (※委員長)
鈴木 規之	(独)国立環境研究所 環境リスク研究センター 副センター長
高見 昭憲	(独)国立環境研究所 地域環境研究センター 副センター長
福崎 紀夫	新潟工科大学 環境科学科 教授
丸本 幸治	国立水俣病総合研究センター 環境・疫学研究部 環境化学研究室 主任研究員
溝畑 朗	大阪府立大学 名誉教授

### 3. 調査結果の概要

#### (1) 大気中水銀濃度

形態別水銀連続測定装置を用いて、大気中の形態別水銀濃度を測定した。測定結果の概要は以下のとおり。

##### 1) 辺戸岬における平成 26 年度の調査結果の概要

- ・大気中の形態別水銀濃度の合計の年平均値は 1.7 ngHg/m<sup>3</sup>、月平均値の範囲は 1.5～2.1 ngHg/m<sup>3</sup>、1 時間毎の測定値の範囲は 1.2～3.9 ngHg/m<sup>3</sup>であった。大気汚染防止法に基づく大気中水銀濃度の指針値（年平均値 40 ngHg/m<sup>3</sup>）を下回る値であった（表 3、図 1）。
- ・大気中の水銀は、そのほとんどが金属水銀で占められており、酸化態水銀及び粒子状水銀が占める割合は、平均で 1 %未満、高い時でも数%程度であった（表 3、図 1）。
- ・水銀濃度の平均値や範囲は調査時期によって異なり、水銀濃度は比較的短期間で変化していることが確認された（図 1、図 2）。
- ・環境省水・大気環境局が実施している大気汚染防止法に基づく有害大気汚染物質モニタリング調査における平成 25 年度の水銀濃度（全国平均で 2.0 ngHg/m<sup>3</sup>）と比較して、本調査の結果は概ね同程度であった。（参考 1 参照）

※大気汚染防止法に基づいて行われている有害大気汚染物質モニタリング調査における水銀濃度のモニタリングと本調査では測定方法が異なる。（参考 3 参照）

表3 辺戸岬における大気中水銀濃度の測定結果（平成26年度）

測定項目	統計値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
金属水銀 (①) (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	1.9	2.1	2.0	1.7	1.5	1.6	1.6	1.6	1.7	1.7	1.7	1.6	1.7
	標準偏差	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	0.3
	最小値	1.5	1.5	1.5	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
	最大値	3.2	3.0	3.4	2.6	2.4	2.2	3.5	2.5	3.9	3.6	3.6	2.5	3.9
	中央値	1.8	2.0	1.9	1.7	1.4	1.5	1.6	1.5	1.6	1.6	1.6	1.5	1.7
酸化態水銀 (②) (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	0.002	0.003	0.002	0.002	0.003	0.004	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.002
	最小値	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	最大値	0.014	0.035	0.024	0.010	0.026	0.047	0.014	0.013	0.012	0.010	0.012	0.008	0.047
	中央値	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.002	0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.001	<0.001	<0.001
	75%値	0.002	0.002	0.001	0.002	0.004	0.005	0.002	0.002	0.003	0.003	0.003	0.001	0.003
	検出率(%)	46	44	33	53	66	56	42	41	51	56	51	26	46
粒子状水銀 (③) (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	0.007	0.003	0.002	0.001	0.001	0.001	0.002	0.002	0.008	0.011	0.009	0.006	0.004
	最小値	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	最大値	0.027	0.014	0.016	0.004	0.010	0.004	0.010	0.012	0.044	0.033	0.029	0.027	0.044
	中央値	0.006	0.003	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.005	0.009	0.007	0.004	0.002
	75%値	0.009	0.005	0.002	0.001	<0.001	0.001	0.002	0.002	0.009	0.014	0.014	0.008	0.006
	検出率(%)	100	80	46	44	21	38	65	67	94	100	97	86	71
合計 (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	1.9	2.1	2.0	1.7	1.5	1.6	1.6	1.6	1.8	1.7	1.7	1.6	1.7
	標準偏差	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.2	0.3
	最小値	1.5	1.5	1.5	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
	最大値	3.2	3.0	3.4	2.6	2.4	2.2	3.5	2.5	3.9	3.6	3.6	2.5	3.9
	中央値	1.8	2.0	1.9	1.7	1.4	1.5	1.6	1.5	1.6	1.6	1.6	1.5	1.7
月平均値の 構成比 (%)	①	99.6	99.7	99.8	99.9	99.7	99.7	99.8	99.8	99.4	99.3	99.4	99.6	99.6
	②	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	③	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.6	0.5	0.4	0.2

注1) 最大値及び最小値は、それぞれの形態毎の測定値（測定頻度については表1参照）の月間の最大・最小値を表す。また、合計は、金属水銀の測定値に、酸化態水銀及び粒子状水銀の測定値を合計することにより算出した。

(※それぞれの形態の測定頻度は異なるが、本調査では、次の測定値が出るまでの時間の濃度は、直後に測定された濃度と同一であるとみなし、合計を計算した。)

注2) 1 ng (ナノグラム) は 10 億分の 1 g (グラム) にあたる。

注3) 測定の定量下限値は金属水銀 0.1 ngHg/m<sup>3</sup>、酸化態水銀及び粒子状水銀 0.001 ngHg/m<sup>3</sup> であり、「<」は定量下限値未満を示す。平均値の算出にあたり、定量下限値未満の数値については定量下限値の 1/2 として計算に用いた。なお、酸化態水銀及び粒子状水銀は、定量下限値未満の測定値が多かったことから、参考として、75%値（測定値の低いほうから 0.75× n 番目（n はデータ数）の値）及び検出率（定量下限値以上の測定値の割合）を示した。

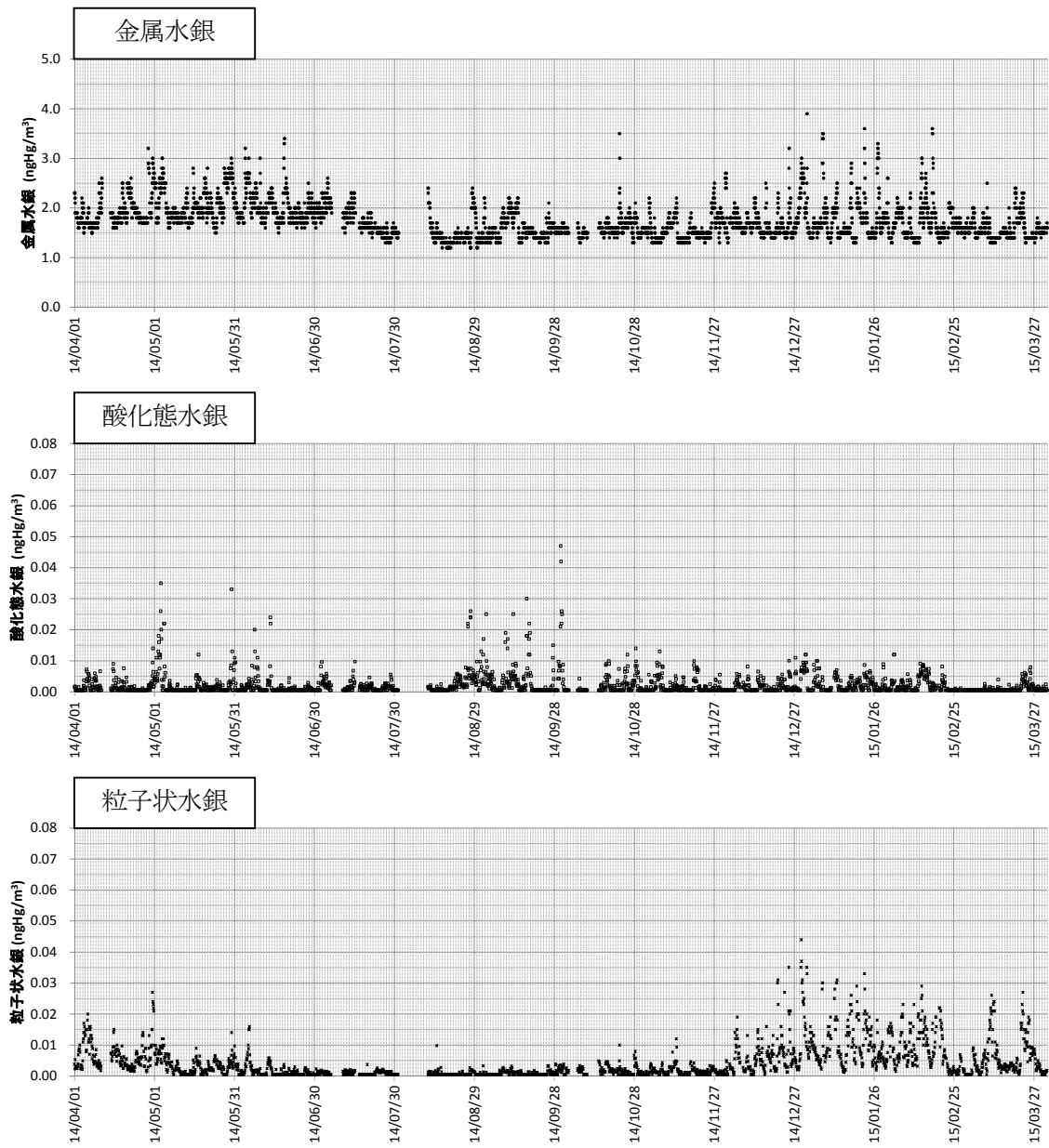
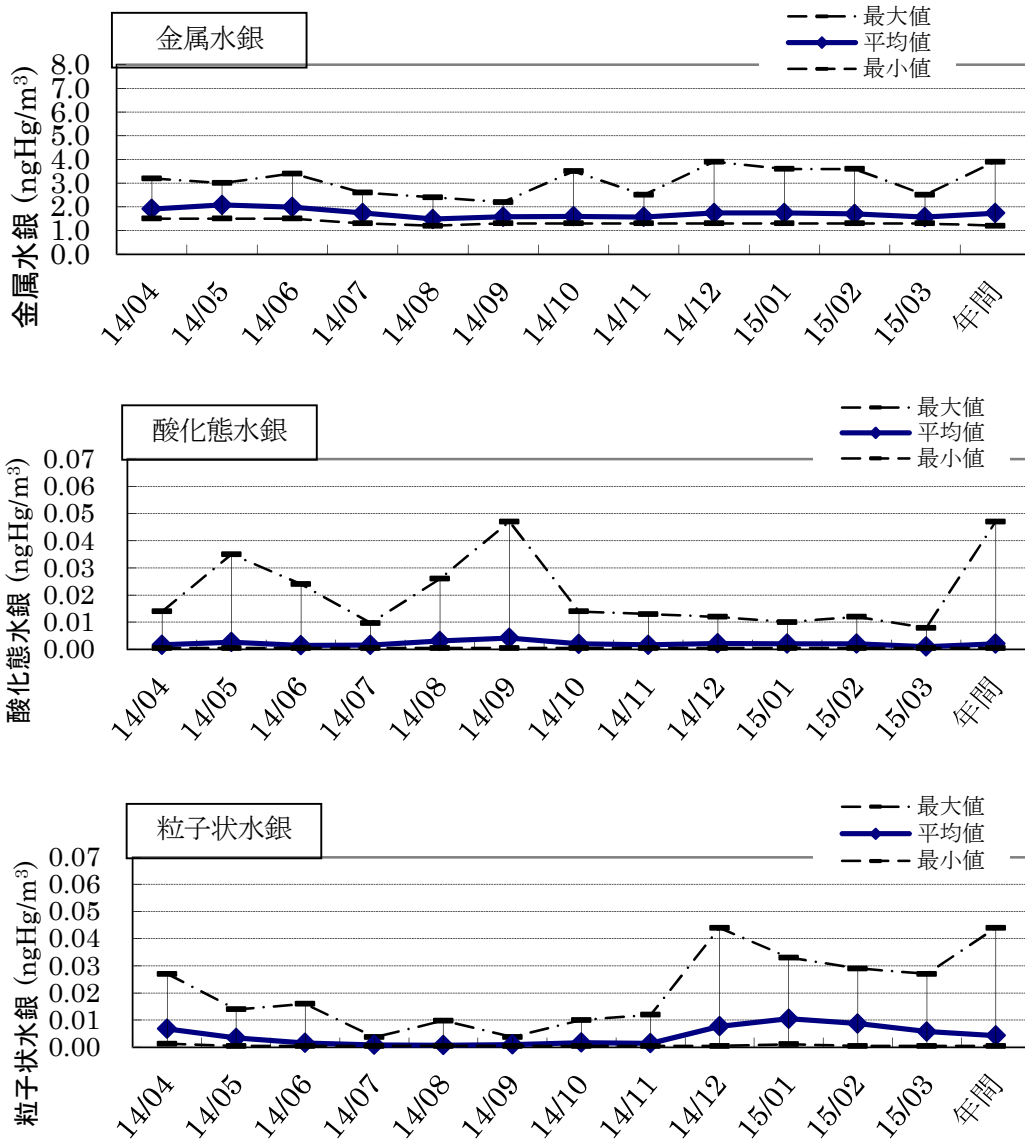


図1 辺戸岬における大気中形態別水銀濃度の測定結果（平成26年度）



注) 最大値及び最小値は、それぞれの形態毎の測定値の月内での最大又は最小値を表す。

図2 辺戸岬における大気中形態別水銀濃度の測定結果(月平均値等)(平成26年度)



## 2) 辺戸岬における平成 26 年度と過年度の傾向の比較

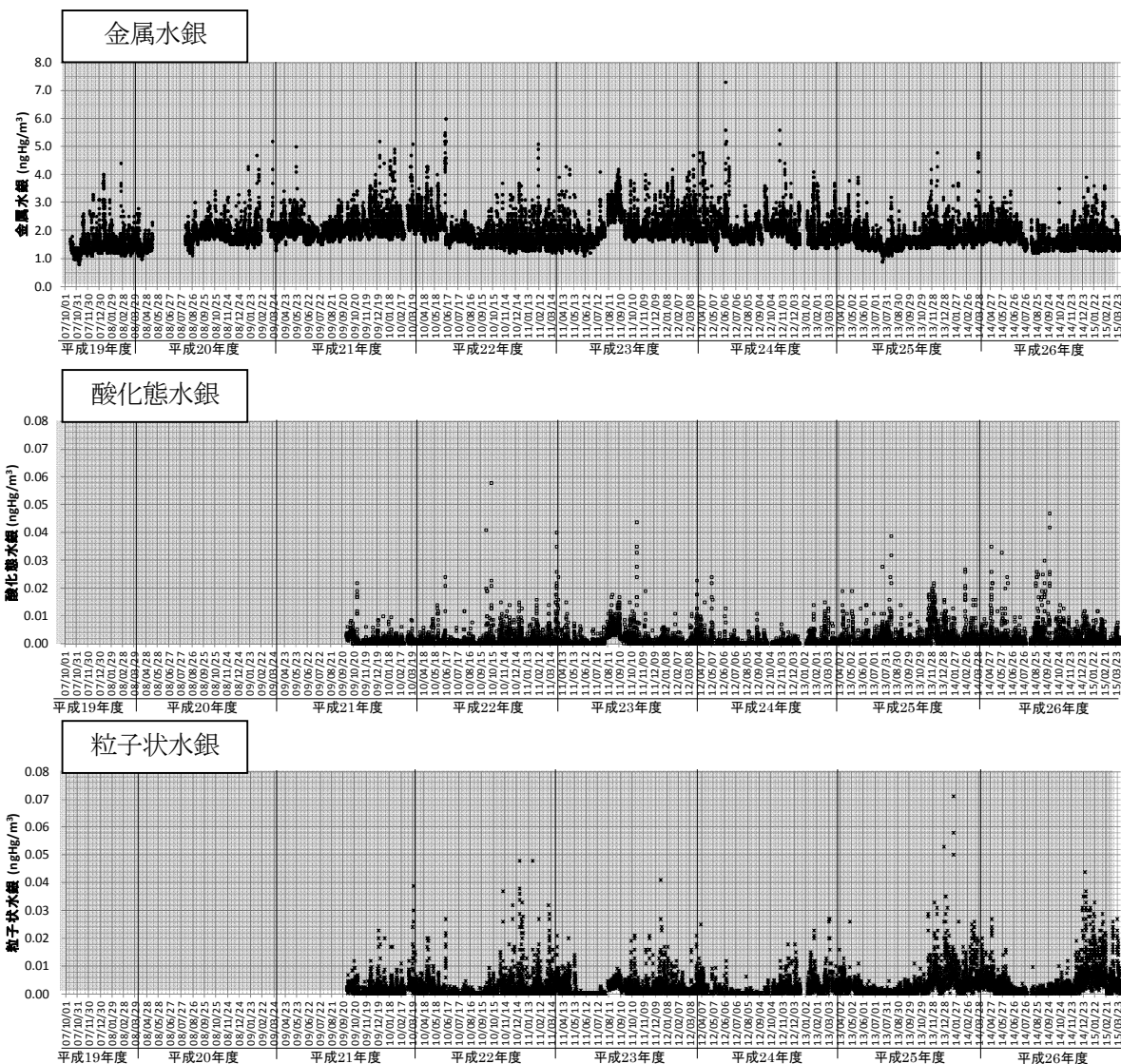
- 平成 26 年度の形態別の水銀濃度及びそれらの合計の年平均値は、過年度の調査結果（合計又は金属水銀の濃度について年平均値で 2 ngHg/m<sup>3</sup>前後）と比較して、昨年度に引き続きやや低い値となったが、概ね横ばいで推移した（図 3、表 4、表 5）。
- 過年度の調査結果も含めて、測定値は大気汚染防止法に基づく大気中の水銀濃度の指針値(年平均値 40 ngHg/m<sup>3</sup>)を常に下回っていた（図 3、表 5）。
- なお、平成 21 年度までは試行調査段階であるため、調査日数が異なる等、調査結果の年度間の比較には注意が必要である。

表 4 辺戸岬における大気中水銀濃度の年度別調査結果の概要

調査時期	大気中水銀濃度 (ngHg/m <sup>3</sup> )			調査日数
	平均値	最小値	最大値	
平成 19 年度	1.5	0.8	4.4	168
平成 20 年度	1.8	1.0	5.2	250
平成 21 年度	2.2	1.5	5.2	350
平成 22 年度	1.9	1.2	6.0	353
平成 23 年度	2.1	1.1	4.7	341
平成 24 年度	2.0	1.3	7.3	309
平成 25 年度	1.7	0.9	4.8	352
平成 26 年度	1.7	1.2	3.9	345

注 1) 平成 19 年度については、測定を開始した平成 19 年 10 月 16 日以降のデータの平均値等を記載している。

注 2) 平成 21 年 9 月以前については、金属水銀の測定データを用いた。平成 21 年 10 月以降については、酸化態及び粒子状水銀について安定して測定が実施できるようになったことから、同月以降は合計濃度を算出しており、そのデータを平均値の算出に用いている。（表 5、図 3 参照）



注) 酸化態水銀及び粒子状水銀については、安定して測定が実施できるようになった平成 21 年 10 月以降のデータを掲載している。

図 3 辺戸岬における大気中形態別水銀濃度の測定結果の経年変化

表5 辺戸岬における過年度の大気中水銀濃度（合計又は金属水銀）測定結果の  
月毎データ

平成 21 年度（9 月以前は金属水銀、10 月以降は合計）（単位：ngHg/m<sup>3</sup>）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
平均値	2.0	2.2	2.0	1.8	2.0	2.1	2.2	2.1	2.4	2.2	2.3	2.5	2.2
標準偏差	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.5	0.5	0.4	0.5	0.4
最小値	1.5	1.7	1.5	1.5	1.6	1.6	1.7	1.7	1.8	1.7	1.7	1.9	1.5
最大値	3.4	5.0	3.1	2.3	2.5	3.1	3.4	3.5	5.2	4.5	4.9	5.1	5.2
中央値	2.0	2.1	1.9	1.8	2.0	2.0	2.1	2.1	2.3	2.0	2.2	2.3	2.0

注) 10 月以降、金属水銀及び粒子状水銀について安定して測定が実施できるようになったことから、同月以降は合計濃度を算出し、そのデータを掲載している。

平成 22 年度（合計）（単位：ngHg/m<sup>3</sup>）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
平均値	2.4	2.2	2.2	1.9	1.8	1.7	1.8	1.8	1.8	1.6	1.8	1.7	1.9
標準偏差	0.5	0.4	0.8	0.1	0.2	0.2	0.3	0.3	0.5	0.3	0.5	0.4	0.5
最小値	1.6	1.7	1.4	1.6	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.3	1.2	1.2
最大値	4.3	4.0	6.0	2.4	2.7	2.3	3.3	3.7	3.7	3.1	5.1	3.1	6.0
中央値	2.3	2.2	2.1	1.9	1.8	1.6	1.7	1.7	1.7	1.5	1.7	1.5	1.8

平成 23 年度（合計）（単位：ngHg/m<sup>3</sup>）

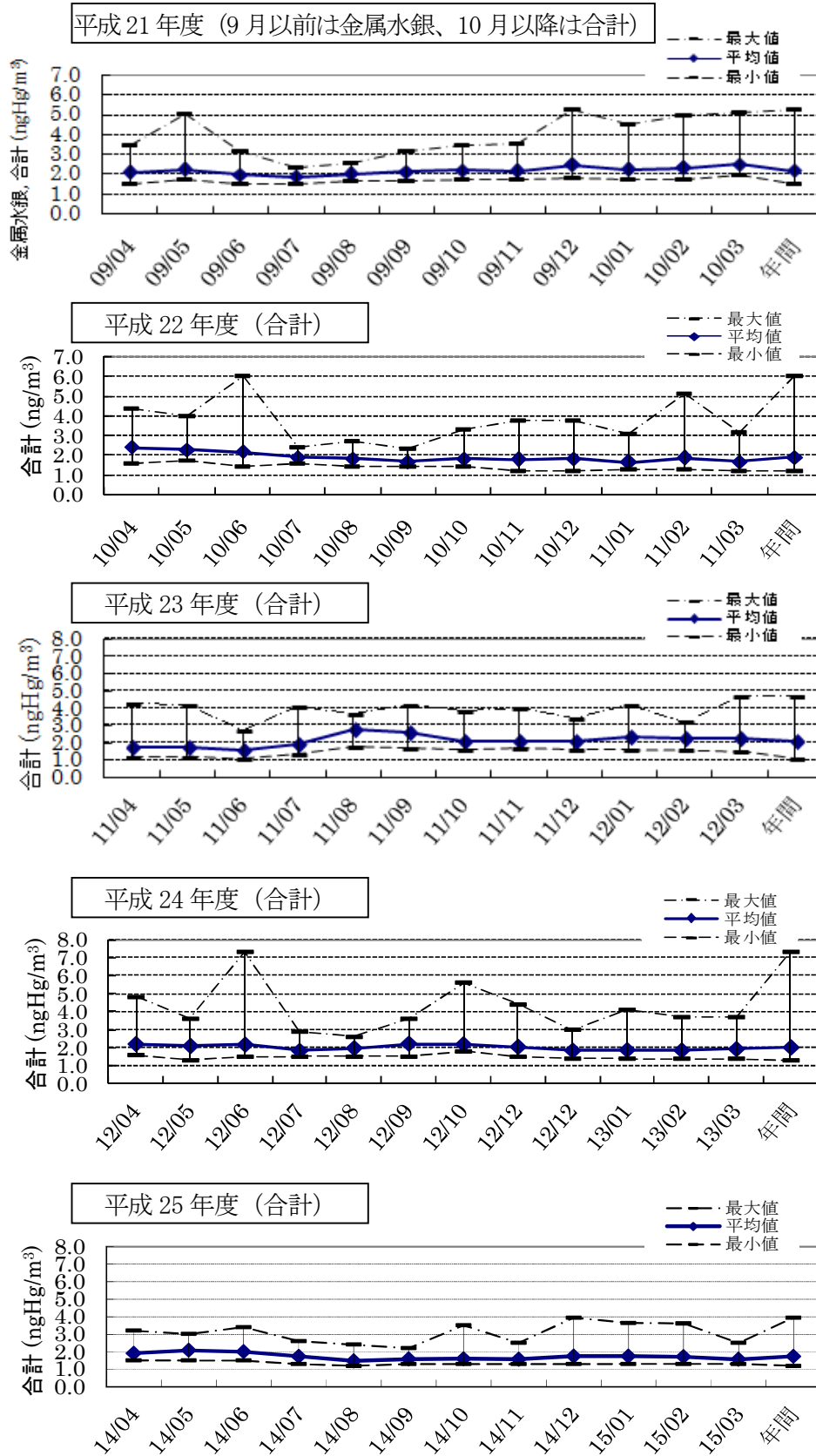
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
平均値	1.8	1.7	1.6	1.9	2.8	2.6	2.1	2.1	2.1	2.3	2.2	2.3	2.1
標準偏差	0.4	0.4	0.2	0.3	0.3	0.6	0.3	0.3	0.3	0.5	0.3	0.5	0.5
最小値	1.2	1.2	1.1	1.4	1.8	1.7	1.6	1.7	1.6	1.6	1.6	1.5	1.1
最大値	4.3	4.2	2.7	4.1	3.7	4.2	3.8	4.0	3.4	4.2	3.2	4.7	4.7
中央値	1.7	1.6	1.6	1.9	2.7	2.6	2.0	2.0	1.9	2.2	2.2	2.1	2.0

平成 24 年度（合計）（単位：ngHg/m<sup>3</sup>）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
平均値	2.2	2.1	2.2	1.8	2.0	2.2	2.2	2.1	1.8	1.9	1.9	1.9	2.0
標準偏差	0.7	0.4	0.7	0.2	0.2	0.4	0.3	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.5
最小値	1.6	1.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.8	1.5	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3
最大値	4.8	3.6	7.3	2.9	2.6	3.6	5.6	4.4	3.0	4.1	3.7	3.7	7.3
中央値	2.0	2.1	2.0	1.8	1.9	2.2	2.1	2.0	1.7	1.7	1.8	1.8	1.9

平成 25 年度（合計）（単位：ngHg/m<sup>3</sup>）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
平均値	1.9	2.1	2.0	1.7	1.5	1.6	1.6	1.6	1.8	1.7	1.7	1.6	1.7
標準偏差	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.2	0.3
最小値	1.5	1.5	1.5	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.2
最大値	3.2	3.0	3.4	2.6	2.4	2.2	3.5	2.5	3.9	3.6	3.6	2.5	3.9
中央値	1.8	2.0	1.9	1.7	1.4	1.5	1.6	1.5	1.6	1.6	1.6	1.5	1.7



※平成 26 年度の結果は、図 2 参照。

図 4 辺戸岬における大気中水銀濃度の過年度調査結果(月別平均値、範囲)

### 3) 男鹿における平成 26 年度の調査結果の概要

- 大気中の形態別水銀濃度の合計の年平均値は 1.6 ngHg/m<sup>3</sup>、月平均値の範囲は 1.5~1.8 ngHg/m<sup>3</sup>、1 時間毎の測定値の範囲は 0.9~6.7 ngHg/m<sup>3</sup>であった。大気汚染防止法に基づく大気中水銀濃度の指針値（年平均値 40 ngHg/m<sup>3</sup>）を下回る値であった（表 6、図 5）。
- 大気中の水銀は、そのほとんどが金属水銀で占められており、酸化態水銀及び粒子状水銀が占める割合は、平均で 1%未満、高い時でも数%程度であった（表 6、図 5）。
- 水銀濃度の平均値や範囲は調査時期によって異なり、水銀濃度は比較的短期間で変化していることが確認された（図 5、図 6）。
- 環境省水・大気環境局が実施している大気汚染防止法に基づく有害大気汚染物質モニタリング調査における平成 25 年度の水銀濃度（全国平均で 2.0 ngHg/m<sup>3</sup>）と比較して、本調査の結果は概ね同程度であった。（参考 1 参照）

表6 男鹿における大気中水銀濃度の測定結果（平成26年度）

測定項目	統計値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
金属水銀 (①) (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	—	—	—	—	1.8	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.8	1.6
	標準偏差	—	—	—	—	0.7	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.4
	最小値	—	—	—	—	0.9	0.9	1.1	1.1	1.3	1.3	1.3	1.3	0.9
	最大値	—	—	—	—	6.7	2.8	3.3	4.0	4.5	3.2	2.5	3.9	6.7
	中央値	—	—	—	—	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.6	1.7	1.6
酸化態水銀 (②) (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	—	—	—	—	0.001	0.004	0.002	0.001	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002
	最小値	—	—	—	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	最大値	—	—	—	—	0.014	0.048	0.013	0.009	0.010	0.033	0.014	0.033	0.048
	中央値	—	—	—	—	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	0.002	0.001
	75%値	—	—	—	—	0.001	0.006	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002
	検出率(%)	—	—	—	—	34	61	41	33	56	45	50	69	50
粒子状水銀 (③) (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	—	—	—	—	0.004	0.007	0.007	0.008	0.011	0.013	0.009	0.010	0.009
	最小値	—	—	—	—	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.002	<0.001	<0.001	<0.001
	最大値	—	—	—	—	0.121	0.144	0.064	0.057	0.035	0.127	0.061	0.110	0.144
	中央値	—	—	—	—	0.002	0.003	0.004	0.006	0.011	0.011	0.008	0.007	0.007
	75%値	—	—	—	—	0.003	0.008	0.008	0.009	0.015	0.015	0.012	0.010	0.011
	検出率(%)	—	—	—	—	66	83	93	88	98	100	99	97	91
合計 (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	—	—	—	—	1.8	1.5	1.6	1.5	1.7	1.6	1.6	1.8	1.6
	標準偏差	—	—	—	—	0.7	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4
	最小値	—	—	—	—	0.9	0.9	1.1	1.1	1.3	1.3	1.3	1.3	0.9
	最大値	—	—	—	—	6.7	2.8	2.9	2.4	3.9	3.2	2.5	4.0	6.7
	中央値	—	—	—	—	1.6	1.5	1.5	1.5	1.6	1.5	1.6	1.7	1.6
月平均値の 構成比 (%)	①	—	—	—	—	99.7	99.3	99.4	99.4	99.2	99.1	99.3	99.3	99.3
	②	—	—	—	—	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1
	③	—	—	—	—	0.2	0.4	0.5	0.5	0.7	0.8	0.6	0.6	0.5

注1) 最大値及び最小値は、それぞれの形態毎の測定値（測定頻度については表1参照）の月間の最大・最小値を表す。

また、合計は、金属水銀の測定値に、酸化態水銀及び粒子状水銀の測定値を合計することにより算出した。

(※それぞれの形態の測定頻度は異なるが、本調査では、次の測定値が出るまでの時間の濃度は、直後に測定された濃度と同一であるとみなし、合計を計算した。)

注2) 1ng（ナノグラム）は10億分の1g（グラム）にあたる。

注3) 測定の定量下限値は金属水銀0.1 ngHg/m<sup>3</sup>、酸化態水銀及び粒子状水銀0.001 ngHg/m<sup>3</sup>であり、「<」は定量下限値未満を示す。平均値の算出にあたり、定量下限値未満の数値については定量下限値の1/2として計算に用いた。なお、酸化態水銀及び粒子状水銀は、定量下限値未満の測定値が多かったことから、参考として、75%値（測定値の低いほうから0.75×n番目（nはデータ数）の値）及び検出率（定量下限値以上の測定値の割合）を示した。

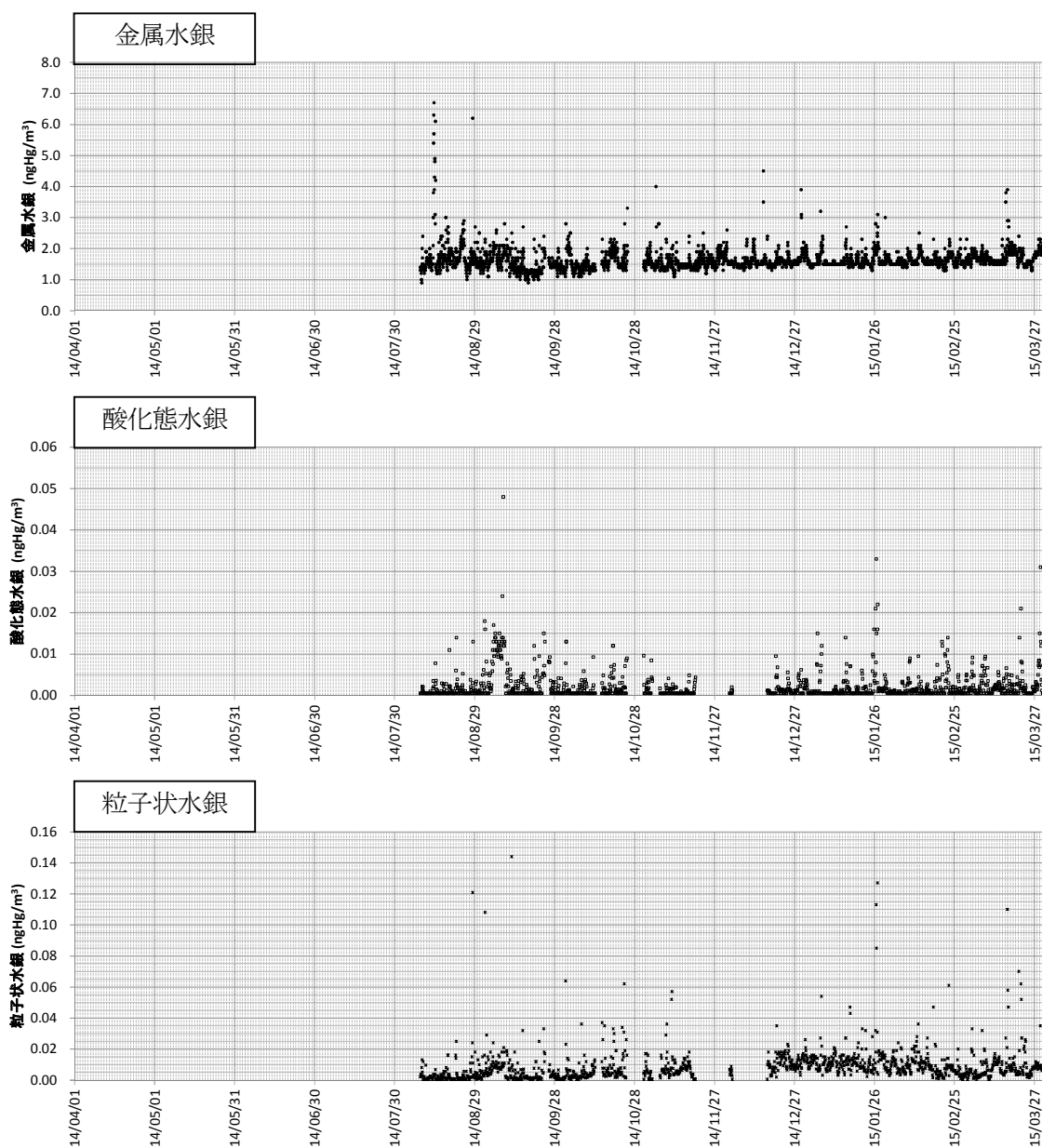
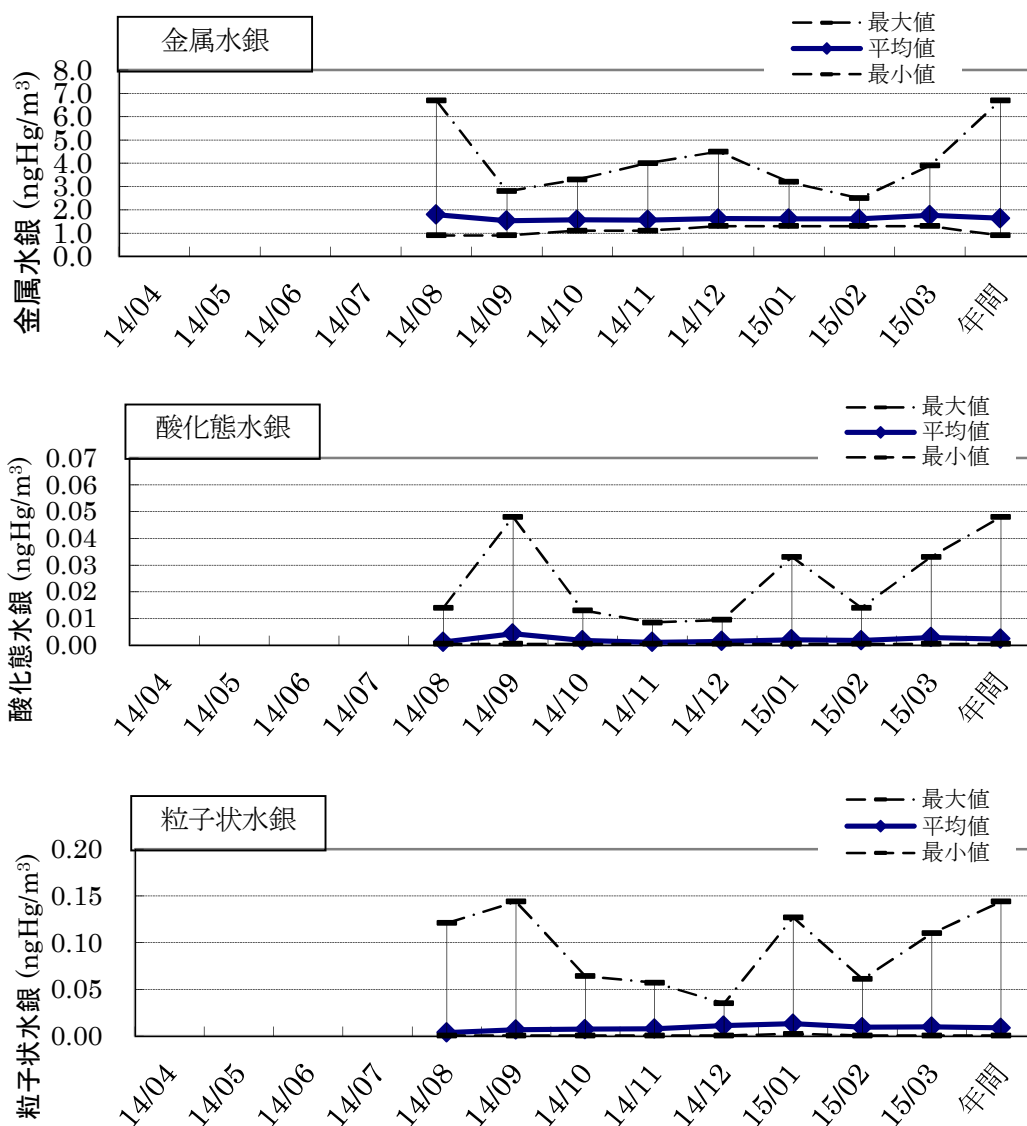


図5 男鹿における大気中形態別水銀濃度の測定結果（平成26年度）



注) 最大値及び最小値は、それぞれの形態毎の測定値の月内での最大又は最小値を表す。

図 6 男鹿における大気中形態別水銀濃度の測定結果 (月平均値等) (平成 26 年度)



## (2) 降水中水銀濃度

週 1 回の頻度で連続採取した降水を回収し、降水中の水銀濃度を測定するとともに、水銀濃度と降水量の積として湿性沈着量(降水によって地上にもたらされた水銀量)を求めた。測定結果の概要は以下のとおり。

### 1) 辺戸岬における平成 26 年度の調査結果の概要

- ・ 降水中水銀濃度の年平均値は 1.4 ng/L、測定値の範囲は 0.2~3.8 ng/L であった。降水中の水銀については指針値等が設定されていないが、参考として、これらの測定値を、水銀に関する水道水の水質基準値である 0.0005 mg/L (500 ng/L) と比較すると、非常に低い値であった。(図 7)
- ・ 水銀の湿性沈着量は週毎の平均値で 69 ng/m<sup>2</sup> (0.07 μg/m<sup>2</sup>) であり、年間沈着量は約 3.5 μg/m<sup>2</sup> であった。湿性沈着量については、比較できる基準値等はないが、国内 10 カ所の観測例(学术论文での報告<sup>\*</sup>)によると、湿性沈着量は年間 5.8~18 μg/m<sup>2</sup> (平均 14 μg/m<sup>2</sup>) であり、これらの値と比較して、本調査の結果は低い傾向にあった。

なお、降水中の水銀は、大気中の酸化態水銀及び粒子状水銀が降水に取り込まれたものが主と考えられる。このため、大気中の形態別水銀濃度の測定は、水銀の沈着量をより正しく理解するためにも重要である。

※Estimating contribution of precipitation scavenging of atmospheric particulate mercury to mercury wet deposition in Japan, Masahiro Sakata and Kazuo Asakura, Atmospheric Environment Volume 41, Issue 8, March 2007, Pages 1669–1680.

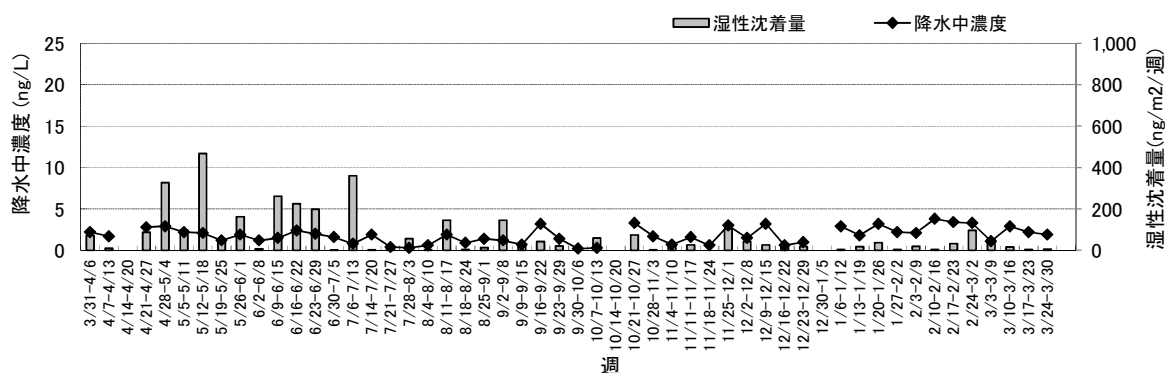


図 7 辺戸岬における降水中水銀濃度及び湿性沈着量 (平成 26 年度)

表7 辺戸岬における降水中水銀濃度等の測定結果（平成26年度）

月・週	採取期間	降水中水銀濃度 (ng/L)	水銀沈着量 (ng/ m <sup>2</sup> /週)	(参考)		備考
				採水量 (L/週)	降水量換算 (mm/週)	
4月1週	3/31-4/6	2.2	71	0.6	32	
4月2週	4/7-4/13	1.7	10	0.1	6	
4月3週	4/14-4/20	-	0	0.0	0	
4月4週	4/21-4/27	2.8	87	0.6	31	
5月1週	4/28-5/4	2.9	327	2.1	113	
5月2週	5/5-5/11	2.2	97	0.8	44	
5月3週	5/12-5/18	2.1	468	4.2	223	
5月4週	5/19-5/25	1.2	48	0.8	40	
6月1週	5/26-6/1	1.9	163	1.6	86	
6月2週	6/2-6/8	1.2	8	0.1	7	
6月3週	6/9-6/15	1.5	262	3.3	174	
6月4週	6/16-6/22	2.4	225	1.8	94	
6月5週	6/23-6/29	2.0	199	1.9	99	
7月1週	6/30-7/5	1.6	1	0.0	1	
7月2週	7/6-7/13	0.8	361	8.4	451	
7月3週	7/14-7/20	1.9	2	0.0	1	
7月4週	7/21-7/27	0.4	9	0.4	21	
8月1週	7/28-8/3	0.3	56	3.5	185	
8月2週	8/4-8/10	0.6	2	0.1	3	
8月3週	8/11-8/17	1.9	145	1.4	77	
8月4週	8/18-8/24	0.9	5	0.1	5	
9月1週	8/25-9/1	1.4	13	0.2	9	
9月2週	9/2-9/8	1.2	145	2.3	121	
9月3週	9/9-9/15	0.7	27	0.7	39	
9月4週	9/16-9/22	3.2	42	0.2	13	
9月5週	9/23-9/29	1.4	21	0.3	15	
10月1週	9/30-10/6	0.2	0	0.0	2	
10月2週	10/7-10/13	0.3	59	3.7	196	
10月3週	10/14-10/20	-	0	0.0	0	
10月4週	10/21-10/27	3.3	74	0.4	23	
11月1週	10/28-11/3	1.7	3	0.0	2	
11月2週	11/4-11/10	0.7	34	0.9	48	
11月3週	11/11-11/17	1.6	26	0.3	16	
11月4週	11/18-11/24	0.6	0	0.0	1	
12月1週	11/25-12/1	3.0	104	0.6	35	
12月2週	12/2-12/8	1.5	42	0.5	28	
12月3週	12/9-12/15	3.2	26	0.2	8	
12月4週	12/16-12/22	0.6	18	0.6	30	
12月5週	12/23-12/29	1.0	19	0.4	19	2週間値
1月1週	12/30-1/5					
1月2週	1/6-1/12	2.9	5	0.0	2	
1月3週	1/13-1/19	1.8	17	0.2	9	
1月4週	1/20-1/26	3.2	37	0.2	12	
2月1週	1/27-2/2	2.2	5	0.0	2	
2月2週	2/3-2/9	2.1	20	0.2	10	
2月3週	2/10-2/16	3.8	4	0.0	1	
2月4週	2/17-2/23	3.4	33	0.2	10	
3月1週	2/24-3/2	3.3	97	0.5	29	
3月2週	3/3-3/9	1.1	56	1.0	51	
3月3週	3/10-3/16	2.9	16	0.1	5	
3月4週	3/17-3/23	2.2	4	0.0	2	
3月5週	3/24-3/30	1.9	6	0.1	3	
全期間	平均値	1.4	69	0.9	48	単純平均濃度 1.8ng/L 年間沈着量 3.5µg/m <sup>2</sup> /年
	最小値	0.2	0	0.0	0	
	最大値	3.8	468	8.4	451	

## 2) 辺戸岬における平成 26 年度と過年度の傾向の比較

- ・平成 26 年度の降水中水銀濃度の年平均値は、平成 25 年度までの調査結果と比較して低い値となりました。（表 8、図 8）

表 8 辺戸岬における降水中水銀濃度及び湿性沈着量の年度別調査結果の概要

調査時期	水銀濃度(ng/L)			湿性沈着量(ng /m <sup>2</sup> /週)		
	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値
平成 20 年度	3.4	0.4	15.7	122	0	864
平成 21 年度	3.1	0.7	17.5	120	0	589
平成 22 年度	2.4	0.9	11.9	105	0	760
平成 23 年度	3.0	0.6	10.9	83	0	1,205
平成 24 年度	1.9	0.7	10.1	75	0	384
平成 25 年度	2.2	0.5	12.3	67	0	511
平成 26 年度	1.4	0.2	3.8	69	0	468

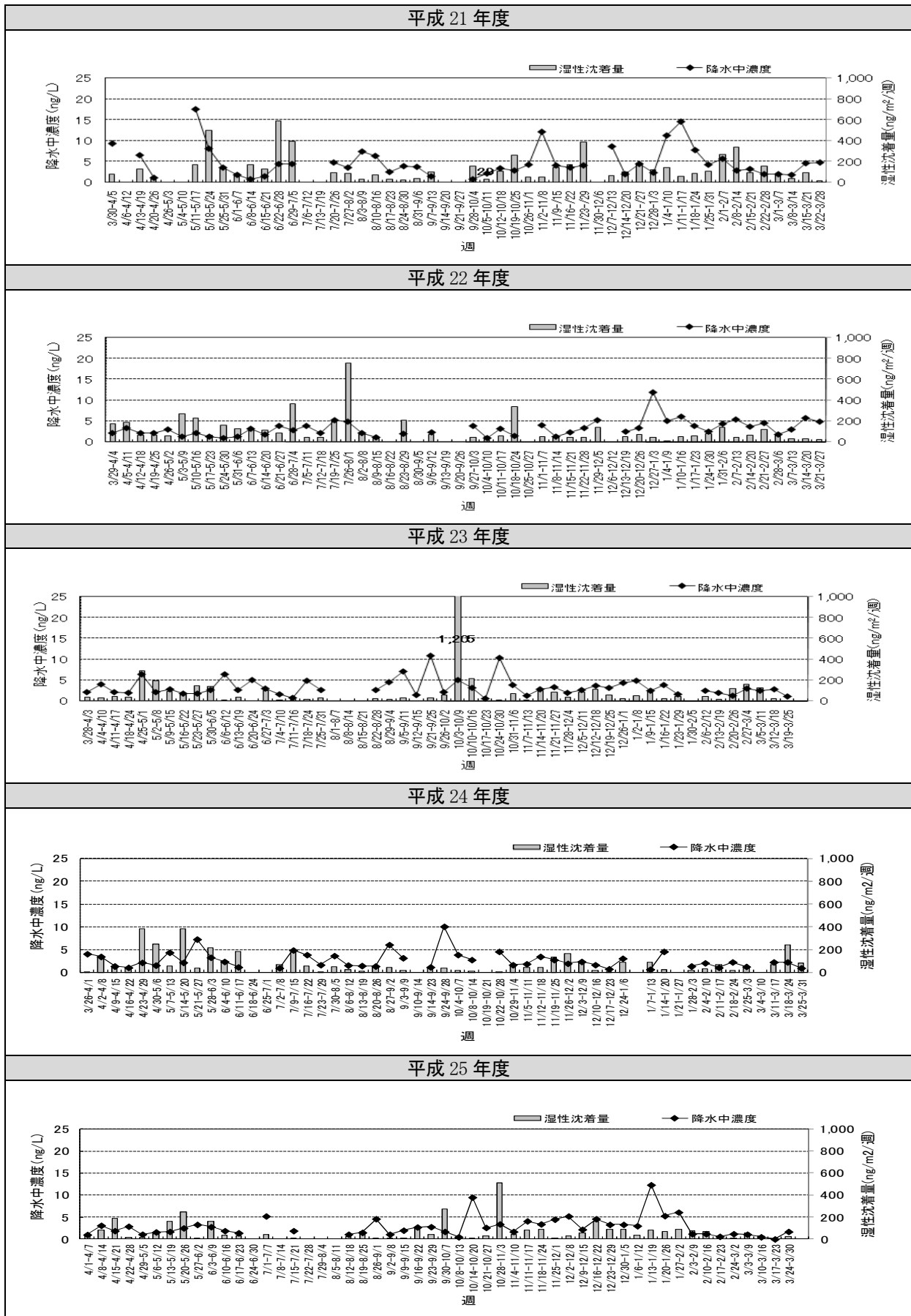


図8 辺戸岬における降水中水銀濃度及び湿性沈着量の過年度調査結果

### 3) 男鹿における平成 26 年度の調査結果の概要

- ・ 降水中水銀濃度の平成 26 年 9 月～平成 27 年 3 月の平均値は 2.5 ng/L、測定値の範囲は 0.1～9.2 ng/L であった。降水中の水銀については指針値等が設定されていないが、参考として、これらの測定値を、水銀に関する水道水の水質基準値である 0.0005 mg/L (500 ng/L) と比較すると、非常に低い値であった。(図 9)
- ・ 水銀の湿性沈着量は週毎の平均値で 83 ng/m<sup>2</sup> (0.08 μg/m<sup>2</sup>) であり、7 カ月間の沈着量は約 2.4 μg/m<sup>2</sup> であった。湿性沈着量については、比較できる基準値等はないが、辺戸岬と同様に、学術論文での報告による国内 10 カ所の観測例の年間湿性沈着量 5.8～18 μg/m<sup>2</sup> (平均 14 μg/m<sup>2</sup>) と比較して、本調査の結果は低い傾向にあった。

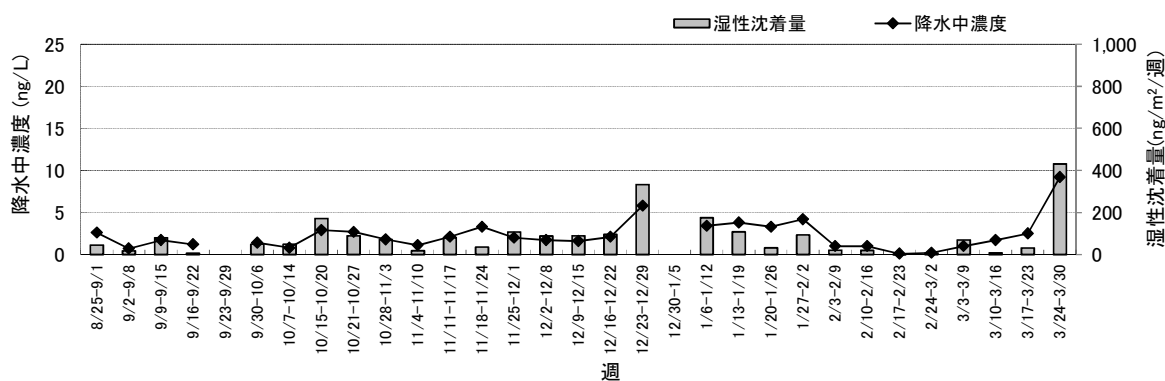


図 9 男鹿における降水中水銀濃度及び湿性沈着量 (平成 26 年度)

表9 男鹿における降水中水銀濃度等の測定結果（平成26年度）

月・週	採取期間	降水中水銀濃度 (ng/L)	水銀沈着量 (ng/ m <sup>2</sup> /週)	(参考)		備考	
				採水量 (L/週)	降水量換算 (mm/週)		
9月1週	8/25-9/1	2.6	45	0.3	17	台風16号により停電	
9月2週	9/2-9/8	0.7	17	0.4	24		
9月3週	9/9-9/15	1.7	80	0.9	47		
9月4週	9/16-9/22	1.2	6	0.1	5		
9月5週	9/23-9/29	-	-	-	0		
10月1週	9/30-10/6	1.4	49	0.7	35		
10月2週	10/7-10/14	0.8	49	1.2	62		
10月3週	10/15-10/20	2.9	171	1.1	59		
10月4週	10/21-10/27	2.7	89	0.6	33		
11月1週	10/28-11/3	1.8	71	0.7	39		
11月2週	11/4-11/10	1.1	18	0.3	16		
11月3週	11/11-11/17	2.1	81	0.7	38		
11月4週	11/18-11/24	3.3	35	0.2	11		
12月1週	11/25-12/1	2.0	107	1.0	54		
12月2週	12/2-12/8	1.7	88	1.0	52		
12月3週	12/9-12/15	1.6	89	1.0	56		
12月4週	12/16-12/22	2.1	95	0.8	45		
12月5週	12/23-12/29	5.8	333	0.7	57		
1月1週	12/30-1/5	3.4	174	0.6	51		2週間値
1月2週	1/6-1/12	3.8	108	0.3	28		
1月3週	1/13-1/19	3.3	32	0.1	10		
1月4週	1/20-1/26	4.2	93	0.3	22		
2月1週	2/3-2/9	1.0	21	0.2	21		
2月2週	2/10-2/16	1.0	19	0.2	19		
2月3週	2/17-2/23	0.1	1	0.1	11		
2月4週	2/24-3/2	0.2	7	0.4	37		
3月1週	3/3-3/9	1.0	69	0.8	69		
3月2週	3/10-3/16	1.7	8	0.1	5		
3月3週	3/17-3/23	2.5	31	0.1	13		
3月4週	3/24-3/30	9.2	431	0.5	47		
全期間	平均値	2.5	83	0.5	33	単純平均濃度 2.3ng/L 期間沈着量 2.4μg/m <sup>2</sup> /7ヶ月	
	最小値	0.1	1	0.1	0		
	最大値	9.2	431	1.2	69		

(3) まとめ

1) 平成 26 年度の調査結果

- ・ 辺戸岬における大気中水銀濃度は、年間平均値が 1.7 ngHg/m<sup>3</sup>、1 時間毎の測定値の範囲は、最小値が 1.2 ngHg/m<sup>3</sup>、最大値が 3.9 ngHg/m<sup>3</sup>であった。
- ・ 男鹿における大気中水銀濃度は、平成 26 年 8 月～平成 27 年 3 月の期間平均値が 1.6 ngHg/m<sup>3</sup>、1 時間毎の測定値の範囲は、最小値が 0.9 ngHg/m<sup>3</sup>、最大値が 6.7 ngHg/m<sup>3</sup>であった。同期間の辺戸岬における期間平均値は 1.6 ngHg/m<sup>3</sup>、1 時間毎の測定値の範囲は、最小値が 1.2 ngHg/m<sup>3</sup>、最大値が 3.9 ngHg/m<sup>3</sup>であり、最大値は男鹿がやや大きな値となったが、期間平均値は概ね同程度の値であった。

表 10 大気中水銀濃度の期間平均値及び範囲 (平成 26 年度)

調査時期		水銀濃度		
		平均値 (ngHg/m <sup>3</sup> )	最小値 (ngHg/m <sup>3</sup> )	最大値 (ngHg/m <sup>3</sup> )
辺戸岬	全期間	1.7	1.2	3.9
	8～3 月	1.6	1.2	3.9
男鹿	全期間	—	—	—
	8～3 月	1.6	0.9	6.7

※男鹿については、測定を開始した平成 26 年 8 月 8 日以降のデータを用いて平均値を算出した。

- ・ 辺戸岬における降水中水銀濃度は、年間平均値が 1.4 ng/L、測定値の範囲は、最小値が 0.2 ng/L、最大値が 3.8 ng/L であった。
- ・ 男鹿における降水中水銀濃度は、平成 26 年 9 月～平成 27 年 3 月の期間平均値が 2.5 ng/L、測定値の範囲は、最小値が 0.1 ng/L、最大値が 9.2 ng/L であった。同期間の辺戸岬における期間平均値は 1.3 ng/L、測定値の範囲は、最小値が 0.2 ng/L、最大値が 3.8 ngHg/m<sup>3</sup> であり、最大値、期間平均値のいずれについても男鹿の方が大きな値であった。
- ・ 辺戸岬における湿性沈着量は、年間総沈着量が 3.5 μg/m<sup>2</sup> (週平均値は 69 ng/m<sup>2</sup>/週)、測定値の最大値は 468 ng/m<sup>2</sup>/週であった。
- ・ 男鹿における平成 26 年 9 月～平成 27 年 3 月の湿性沈着量は、期間総沈着量が 2.4 μg/m<sup>2</sup> (週平均値は 83 ng/m<sup>2</sup>/週)、測定値の最大値は 431 ng/m<sup>2</sup>/週であった。同期間の辺戸岬における湿性沈着量は、期間総沈着量が 1.0 μg/m<sup>2</sup> (週平均値は 32 ng/m<sup>2</sup>/週)、測定値の最大値は 145 ng/m<sup>2</sup>/週であり、最大値、期間総沈着量のいずれも、辺戸岬よりも男鹿の方が大きな値であった。

表 11 降水中水銀濃度及び湿性沈着量の期間平均値及び範囲 (平成 26 年度)

調査時期		降水中水銀濃度			湿性沈着量			
		平均値 (ng/L)	最小値 (ng/L)	最大値 (ng/L)	平均値 (ng/m <sup>2</sup> /週)	最小値 (ng/m <sup>2</sup> /週)	最大値 (ng/m <sup>2</sup> /週)	総沈着量 (μg/m <sup>2</sup> )
辺戸岬	全期間	1.4	0.2	3.8	69	0	468	3.5
	9～3 月	1.3	0.2	3.8	32	0	145	1.0
男鹿	全期間	—	—	—	—	—	—	—
	9～3 月	2.5	0.1	9.2	83	1	431	2.4

## 2) 過年度の調査結果との比較

- ・ 辺戸岬における大気中水銀濃度の合計の年平均値は、過年度の調査結果と比較して、昨年度に引き続きやや低い結果となったが、概ね横ばいで推移していた。

表 12 辺戸岬における大気中水銀濃度の年度別測定結果

測定項目	項目	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
金属水銀 (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	1.5	1.8	2.2	1.9	2.1	2.0	1.7	1.7
酸化態水銀 (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	—	—	0.001	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002
粒子状水銀 (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	—	—	0.002	0.002	0.002	0.002	0.004	0.004
合計 (ngHg/m <sup>3</sup> )	平均値	—	—	2.2	1.9	2.1	2.0	1.7	1.7

※平成 19 年度については、測定を開始した 10 月 16 日以降のデータを用いて平均値を算出した。酸化態水銀と粒子状水銀は、平成 21 年 10 月以降に安定した測定が実施できるようになったことから、同月以降合計濃度を算出しており、そのデータを年度別平均値の算出に用いた。

- ・ 平成 26 年度の辺戸岬における降水中水銀濃度の年度別平均値は、過年度と比較して低い結果となった。
- ・ 平成 26 年度の湿性沈着量は年間で 3.5 μg/m<sup>2</sup>/年であり、過年度の湿性沈着量 3.4 ~ 6.2 μg/m<sup>2</sup>/年の範囲内であった。

表 13 辺戸岬における降水中水銀濃度の年度別測定結果

測定項目	項目	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
水銀濃度 (ng/L)	平均値	3.4	3.1	2.4	3.0	1.9	2.2	1.4
湿性沈着量 (μg/m <sup>2</sup> )	総沈着量	6.1	6.2	5.3	4.2	3.9	3.4	3.5

## (4) その他

- ・ 本資料では、大気中の水銀については年・月ごとの統計値、降水中水銀については 1 週間値及び年・月ごとの統計値をとりまとめ公表しているが、研究目的等で、個別の測定データ（表 1 参照）の提供を希望する場合の問い合わせ先は以下のとおり。

### <問い合わせ先>

環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課

TEL : 03-3581-3351 (内線 6356)

E-mail : ehs@env.go.jp



#### 4. 今後の対応

##### ○モニタリング調査の継続等について

- ・ 国際的な水銀の排出状況及び濃度レベルの推移、それらが我が国の環境に及ぼす影響の把握等に資するため、今後も継続的にモニタリング調査を実施する。
- ・ 調査結果は、専門家の確認を得た上で、今後も定期的に公表する予定である。
- ・ 男鹿における観測を平成 27 年度について継続的に実施する。

##### ○大気中形態別水銀濃度の測定結果に係る検討・解析について

- ・ 今年度実施した大気中形態別水銀の測定結果に係る解析・検討については、以下の項目等について、来年度以降も引き続き実施予定である。
  - －大気中水銀濃度と気象要因との関係
  - －大気中水銀濃度と到達する大気由来・輸送経路との関係
  - －大気中水銀濃度と金属類の濃度との関係
  - －大気中水銀濃度と発生源との関係 等
- ・ 検討・解析の結果については、専門家により一定の信頼性が確保されたと判断され、とりまとめられた時点で、公表を行う予定である。

##### ○国際貢献等について

- ・ 本モニタリング調査のデータは、アジア太平洋地域における大気中の水銀の状況についての基礎資料として国際的に重要であり、将来的には水銀に関する水俣条約の有効性評価にも資することから、広く国内外へのデータの提供や結果報告を行う予定である。
- ・ 本モニタリング調査において、測定精度確保等のために蓄積された技術的な知見についても、国際的に広く共有を図ることとしている。
- ・ これらの取組により、大気経由での水銀の広域輸送等に関する国際的な知見の収集や、それらに基づく国際的な取組に、積極的に貢献することとしている。

## (参考 1) 平成 25 年度有害大気汚染物質モニタリング調査結果と本調査の結果の比較

環境省では、大気汚染防止法第 22 条に基づき、地方公共団体が実施した有害大気汚染物質の大気環境モニタリング（有害大気汚染物質モニタリング調査）の結果を取りまとめ公表している。同調査における平成 25 年度の水銀及びその化合物についての調査結果と、本モニタリング調査における形態別水銀濃度の合計を比較した表を以下に示す。本調査の結果は、有害大気汚染物質モニタリング調査結果における水銀及びその化合物の年平均値と、概ね同程度だった。

参考表 1 有害大気汚染物質モニタリング調査結果との比較

区分	調査項目	年度	年平均値	備考
本調査	形態別水銀濃度の合計	平成 26 年度	1.7 ngHg/m <sup>3</sup>	—
		平成 25 年度	1.7 ngHg/m <sup>3</sup>	—
		平成 24 年度	2.0 ngHg/m <sup>3</sup>	—
有害大気汚染物質モニタリング調査	水銀及びその化合物	平成 25 年度	2.0 ngHg/m <sup>3</sup>	・全 261 測定地点の平均値 ・指針値超過地点なし
		平成 24 年度	2.1 ngHg/m <sup>3</sup>	・全 270 測定地点の平均値 ・指針値超過地点なし
大気汚染防止法における指針値			40 ngHg/m <sup>3</sup>	

※大気汚染防止法に基づく平成 25 年度の有害大気汚染物質モニタリング調査結果の詳細については、環境省水・大気環境局の報道発表（平成 27 年 3 月 31 日）参照（下記）

<http://www.env.go.jp/press/100802.html>

※大気汚染防止法に基づく有害大気汚染物質モニタリング調査における水銀濃度のモニタリングと本調査では測定方法が異なります（参考 3 参照）。

## (参考2) 大気中粒子状物質における水銀以外の金属元素の測定結果について

本調査では、水銀の発生源・挙動等を解析するための指標として、平成19年度より、大気中の粒子状物質に含まれる、又は吸着したニッケル、ヒ素、鉛、カドミウム等、金属元素の濃度についても測定を実施している。これらの測定結果については、水銀の大気中濃度等との相関関係を分析する等の発生源解析等に活用することを検討中である。測定及び測定結果の概要は以下の通り。

### ○調査項目、調査方法等

参考表2に示すとおり、ローボリュームエアサンプラーにより試料を採取し、「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」（平成23年3月 環境省）に基づき、誘導結合プラズマ質量分析装置（ICP/MS）により室内分析を行った。

参考表2 調査項目、調査方法及び頻度

調査項目	調査方法	測定頻度
粒子状物質中の、カドミウム、銅、亜鉛、ヒ素、クロム、バナジウム、ニッケル等の濃度 (参考表3及び4参照)	ローボリュームエアサンプラーにより試料を採取し、「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」（平成23年3月 環境省）に基づき、ICP/MSにより室内分析	週1回測定(7日間連続サンプリング)

### ○調査結果の概要

#### ・指針値が設定されている物質（ニッケル及びヒ素）

平成26年度の粒子状物質中のニッケル濃度の測定結果の年平均値は1.4 ngNi/m<sup>3</sup>、ヒ素濃度については年平均値1ngAs/m<sup>3</sup>だった。また、年間の最大濃度値はそれぞれ3.7ng/m<sup>3</sup>、4.1ng/m<sup>3</sup>であり、どちらの物質も大気汚染防止法に基づく指針値（ニッケル：25 ngNi/m<sup>3</sup>、ヒ素：6 ngAs/m<sup>3</sup>）を常に下回っていた。

また、年平均の濃度レベルは、昨年度の測定結果と比較して、ニッケルはやや低く、砒素はやや高くなっている（参考表3）。

参考表3 粒子状物質中のニッケル及びヒ素濃度の測定結果（平成22～26年度）

項目	単位	平成26年度		過年度							
				平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大
ニッケル(Ni)	ng/m <sup>3</sup>	1.4	3.7	1.0	3.7	1.0	4.0	1.1	3.7	1.8	5.5
ヒ素(As)	ng/m <sup>3</sup>	1.0	4.1	0.8	3.9	0.8	2.4	1.0	3.1	1.0	3.6

注) 上記のデータは、測定値の平均値及び最大値を表している。

・ 指針値が設定されていない物質

平成 26 年度の結果では、季節による測定値の変動等が観測されたものの、年平均の濃度レベルは過年度と比較して総じて横ばいで推移していた（参考表 4）。

参考表 4 粒子状物質中の金属元素類の測定結果の概要（平成 22～26 年度）

（単位：ng/m<sup>3</sup>）

項目	平成 26 年度		過年度							
			平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
	平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均	最大
ベリリウム(Be)	0.011	0.055	0.010	0.140	0.007	0.047	0.012	0.100	0.008	0.053
バナジウム(V)	1.8	5.0	1.4	7.9	1.5	3.8	1.7	6.0	1.7	3.7
クロム(Cr)	1.3	5.5	1.1	5.9	0.9	7.0	1.3	5.2	1.2	3.6
マンガン(Mn)	6	27	6	48	5	23	7	49	5	26
コバルト(Co)	0.11	0.44	0.19	1.10	0.22	1.00	0.27	2.30	0.11	0.54
銅(Cu)	1.6	5.3	1.2	5.3	1.0	3.2	1.6	6.5	1.7	5.0
亜鉛(Zn)	15	83	14	50	13	46	17	53	18	59
セレン(Se)	0.7	2.2	0.5	1.5	0.5	1.3	0.7	1.8	0.7	2.4
カドミウム(Cd)	0.18	0.97	0.16	0.68	0.12	0.42	0.17	0.51	0.19	0.98
スズ(Sn)	0.3	1.2	0.3	1.2	0.2	0.8	0.3	0.8	0.3	1.3
アンチモン(Sb)	0.36	1.60	0.24	0.94	0.20	0.61	0.25	0.80	0.31	1.20
テルル(Te)	0.022	0.076	0.016	0.051	0.016	0.057	0.021	0.053	0.022	0.072
バリウム(Ba)	3	20	3	26	2	10	3	22	3	14
タリウム(Tl)	0.06	0.23	0.05	0.18	0.04	0.18	0.06	0.17	0.06	0.24
鉛(Pb)	6	24	6	22	5	19	7	24	7	28
ナトリウム(Na)	4,207	9,200	3,600	8,200	4,600	8,600	4,900	11,000	4,900	11,000
マグネシウム(Mg)	438	950	280	910	310	620	340	1,000	300	630
アルミニウム(Al)	252	1,400	220	2,900	170	1,200	270	2,800	170	960
カリウム(K)	339	940	300	1,800	280	820	370	1,200	340	710
カルシウム(Ca)	375	1,400	250	1,600	270	860	350	1,900	320	1,000
鉄(Fe)	206	990	170	1,900	150	910	240	1,900	170	960
粉じん量	30,000	61,000	28,000	110,000	31,000	65,000	37,000	81,000	31,000	56,000

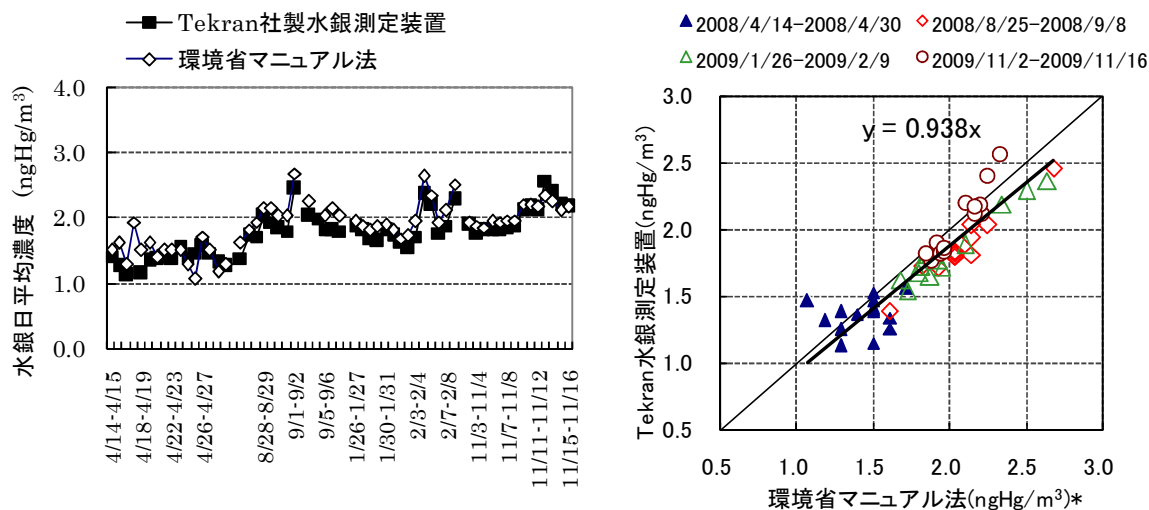
注) 上記のデータは、各項目の測定値の平均値及び最大値を表している。

### (参考3) 有害大気汚染物質測定方法マニュアルによる測定と本調査の方法による測定結果の比較

本調査で用いた Tekran 社製の連続測定装置を用いた測定は、国内では事例がほとんどないことから、測定値の精度を確認するため、水銀濃度の大部分を占める金属水銀について、「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」（平成 23 年 3 月、環境省）（以下、「環境省マニュアル法」と言う。）による水銀濃度の測定との並行試験を実施し、測定結果を比較した。並行試験は、本資料 2.（1）の測定地点において、平成 20～21 年（2008～2009 年）にかけて、各 2 週間程度、計 4 回行った。

それぞれの測定方法で得られた水銀濃度の日平均値\*を比較したところ、連続測定装置による測定結果は、環境省マニュアル法に基づく測定の結果と測定値がほぼ一致していることを確認した。（参考図 1）

※Tekran 社製装置による連続測定では、1 日 16 回測定した測定値の平均値を表す。また、環境省マニュアル法による測定では、24 時間連続サンプリング（1 日 1 回の測定）した際の測定結果を表す。



(左) 環境省マニュアル法に基づき測定された「水銀」濃度と本調査の金属水銀濃度の測定結果の比較

(右) 上記測定結果間の相関関係

参考図 1 環境省マニュアル法に基づく測定との並行試験結果